

PMR 資格試験への挑戦 3

試験を通して得られた収穫

佐藤 好恵

■ 受験動機

P2M は、同僚が PMS、PMR の資格取得に向けた育成の取り組みをしており、その紹介がきっかけで知りました。

PMO として大規模プロジェクトレベルのリスクアセスメントを行う中で、プロジェクト間の依存関係など全体最適な視点を見落としがちで、他者からの助言で気づくことが多かった私にとって、苦手分野克服のヒントを体系的に学べるチャンスだと魅力を感じました。そこで、「P2M プログラム知識習得講座」を受講し、PMS 資格を取得しました。

正直、PMR は大変そうという印象から消極的でしたが、同僚の勧めもあり、自身の実力値を知ることで、実践力を主体とした試験を通して、自身の強み・弱みの示唆をもらい実業務に活用すること、2つの目的で受験を決意しました。

■ 受験の感想

PMR 養成研修を受講したため、試験構成はイメージしやすかったです。ただ、問題のテーマ・内容は当日のお楽しみだったので、どんなテーマが出題されるか不安がありました。また、試験中は限られた時間の中で自分の考えをアウトプットしなければならず、緊張感で常に必死でした。

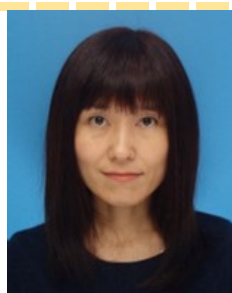
私は、3S やミッションプロファイリングなどの知識フレームをベースに、自分の考えに根拠をもって考え抜くことを意識して取り組みました。身近な自身の業務課題をあてはめて言語化・構造化したドキュメントを上司にレビューしてもらうことで、論理的思考の習慣づけができ、試験対策にもなったと思います。

試験で特に印象深かったのは、二次のモジュール試験です。2日間、手書きの論述で体力的に疲れましたが、精神的には相当の達成感を感じました。というのも、ほかの受験者の方とは運命共同体のような親近感を勝手に感じるくらい、様々なスタイルのリーダーシップに刺激を受けたからです。自身のリーダーシップの弱みを補うための行動様式のヒントや、知らない観点の引き出しに気づくことができ、実りの多い試験になりました。

■ PMR としての展望

PMR はイチ資格の評価尺度で、通過点だと思っています。PMR に合格した今でも、まだまだ、自身の視座の低さ、視野の狭さを反省する日々です。すぐに改善することは難しいですが、なぜダメだったのかを振り返り、可視化して同じ失敗を繰り返さないように、暗黙知と形式知を早く循環させて、PMO としての価値を高めていきたいです。

あわせて、P2M のバイブルである「プログラム&プロジェクトマネジメント標準ガイドブック」を定期的に読み返して、ベース知識の維持に努めたいと思っています。



【プロフィール】 佐藤 好恵 (さとう よしえ)

株式会社中電シーティーアイ 技術本部 総括リージョン 品質保証部

業務効率化に向けたシステムの企画・提案、技術検証プロジェクトを経験。

現在は、電力会社向け大規模システム開発プロジェクトの PMO として、リスクアセスメントと、社内の QMS プロセス改善の取り組みを行っています。